

地域医療連携 News

地域医療連携部長就任ごあいさつ

地域医療連携部長兼神経内科部長 清水洋孝

平素より地域医療連携部に格別の御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。今年度より地域医療連携部長を仰せつかりました清水洋孝と申します。皆様どうぞ宜しくお願い申し上げます。地域医療連携部は現在、医師1名、専従看護師長1名、退院調整看護師5名、医療ソーシャルワーカー3名、医療秘書(医師事務作業補助者)3名、事務職2名の多職種15名で構成されています。



政府は団塊の世代が75歳以上となる2025年(平成37年)を目途に、重度な要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を推進しています。当院は平成23年3月に兵庫県より地域医療支援病院の承認を受け、7年が経過しました。地域医療連携部は地域医療支援病院に求められる

- ①紹介患者さんに対する専門医療の提供(逆紹介を含む)
- ②医療機器の共同利用
- ③救急医療の提供
- ④地域医療に従事する皆様との研修会・交流会の実施

といった役割が円滑に進むように活動を行ない、地域包括ケアシステムの一躍を担うべく邁進してきました。

今後も地域の皆様へ開かれた窓口として顔の見える関係を築き、地域医療の拡充・発展に努めてまいります。御指導、御協力の程何卒宜しくお願い申し上げます。

CONTENTS

- 地域医療連携部長就任ごあいさつ
- 中播磨認知症疾患医療センターのご紹介
- 災害拠点病院としての事業継続計画(BCP)策定に向けた講演会の開催とワーキンググループの結成



中播磨認知症疾患医療センターのご紹介

高齢者脳機能治療室長
中播磨認知症疾患医療センター長 寺島 明

認知症疾患医療センターとは

認知症疾患医療センターとは何をすることでしょくか。どうやら認知症に関連したことを扱っている所らしいという事までは分かるとしても、そこから先は如何でしょくか。

正直、なかなか厄介な組織構造をしています。当認知症疾患医療センターはもちろん、姫路循環器病センターの中にあるわけですが、病院の組織図を探しても何処にもその名前は見当たりません。循環器病センターに勤務している人でさえ、その存在を知らない人も多いと思います。むしろ、外部との連携の中で、病院外の人の方が良くご存じというのが実情かもしれません。

今回、当認知症疾患医療センターについての原稿依頼が来ました。突然の依頼ではありましたが、紹介させていただく機会を与えていただき、感謝しています。

さて、兵庫県から指定されている認知症疾患医療センターは現在9施設となっています。ちなみに、神戸市は5つの認知症疾患医療センターを指定しています。中播磨認知症疾患医療センターは平成23年7月に県より指定を受けました。どうやらこの指定は恒久的なものではなく、平成28年4月に更新となっています。

組織としては当院の高齢者脳機能治療室を中心として、相談員2名を加え、後は循環器病センターの検査機能、薬剤部、事務機能等を利用する構造になっています。当院には、知らないうちに認知症疾患医療センターの職員を兼任している方も大勢いることとなります。

では、この組織で何をすることでしょくかと言うと、県から指定されている項目はおおよそ以下の通りです。

認知症疾患医療センターの業務

- 患者、家族等の相談の受付
- 医療機関等の紹介:連携病院との調整
- 鑑別診断とそれに基づく初期対応
- 身体合併症・周辺症状の急性期対応(主に基幹型認知症疾患医療センターの業務)
- かかりつけ医等への研修の実施
- 地域包括支援センターなど介護サービス提供者との連携(中播磨認知症連携協議会を実施しています)
- 認知症医療に関する情報発信

以上のような業務を行うことになっていますが、県から指定されて以降、当認知症疾患医療センターは、以下のような取り組みにも力を注いできました。

中播磨認知症疾患医療センターの取り組み

1. 地域包括支援センターへの訪問調査。

相談員が各地域包括支援センターを訪問し、現状把握、意見交換をさせて頂きました。当初は各地域包括支援センターにより、認知症に対する理解度が大きく異なりましたが、近年、各センターの認知症に対する対応力は飛躍的に向上してきています。

2. 認知症サロンに参加。

H24年、NPO主催のパイロット的な認知症サロンに講師として参加をしました。思いのほか、大勢の市民の皆さんに参加していただき、認知症に対する注目度の高さを痛感しました。H25年は姫路市主催となり、準基幹型地域包括支援センター4カ所で認知症サロンの講師をさせて頂きました。H26年には、各地域包括支援センター23カ所で認知症サロンを実施。当センターの相談員も講師で参加させて頂いています。認知症カフェも始まり、姫路市の指導で「生き生き百歳体操」も実施されています。その数は飛躍的に増えており、日常生活の中に溶け込んできています。

3. 姫路市医師会の認知症うつ連携パス委員会に委員長、委員として参加。

姫路市医師会の認知症うつ連携パス委員会に参加をさせて頂きました。試験運用を経て、H26年4月より本格運用となっています。残念ながら、依然として利用率は低く、もっと多くの医師に利用して頂けるよう、各講演会を通じて啓発活動が必要だと感じています。

4. 認知症の研修会を実施(年3回)。その他の講演会を共催。市民フォーラムも実施。

年3回、認知症の研修会を実施。地域の看護師さん、ケアマネさん、ヘルパーさん達に参加して頂いています。その他、講師を招いての講演会を共催。また、各種講演会に講師として参加し、啓発活動を行っています。今年からは研修会を年6回実施することになりました。回を重ねるごとに、内容が深まっている様に感じます。基礎的知識の確認と共に、今後、具体例を検討できる場に出来ればと思っています。

また、年1回、市民向けの認知症疾患予防フォーラムを実施しています。毎年、同じ時期に開催することで、市民の皆さんに周知できればと考えています。

5. 姫路市と共同で認知症についてのパンフレットを発行。

姫路市と共同で認知症についてのパンフレットを作成しました。発行部数が限られているため、ホームページからダウンロードして頂けるようになっていました。(「姫路市 認知症パンフレット」で検索して下さい。)思った以上に、よく利用して頂いており、今回改訂版ができました。多くのパンフレットが出回っている中での、発行となりましたが、まず診察を受けること、そして介護サービスにつなげると言った点に重点を置いて編集しています。



6. 認知症初期集中支援チーム H26 年度モデル事業に参加。

国が推進している新オレンジプランに従って、認知症初期集中支援チームの姫路版(生活支援検討会議)が H26 年にパイロット的に開始されました。中播磨認知症疾患医療センター長がアドバイザーとして参加しました。2年目は姫路市で2か所、3チームに拡大、現在は4か所、4 チームに拡大して実施しています。



7. 姫路循環器病センター内で精神科リエゾンチーム回診を運用。

当初は、「せん妄回診」という形でスタートしました。高齢者脳機能治療室の医師が、せん妄を起こした患者さんについて、主治医より対処法の相談を受けるといった形をとっていました。保険で、精神科リエゾン加算が取れるようになったこともあり、医師だけでなく、薬剤師や専門看護師、臨床心理士、作業療法士、医療安全管理者にも参加していただき、週に1度全病棟を回診しています。回診の中で、診断、薬物療法および安全面やケアについて提案。毎年、回診件数が増加してきており、H29 年度は 366 件の回診を実施しました。せん妄の治療には抗精神病薬を処方するだけでなく、各種中枢神経作用薬や遊ビリテーションのような作業療法も盛んに行っています。

8. 「ひめじ おれんぢ プロジェクト(姫路認知症啓発協議会)」に参加。

9月21日、世界アルツハイマーデーに姫路城をオレンジ色にライトアップしています。

「ひめじ おれんぢ プロジェクト」に参加しています。NPOが主体となり、企業も参加している姫路の認知症啓発協議会です。毎年、9月21日の世界アルツハイマーデーには、姫路城をオレンジ色にライトアップしており、その前座のイベントとして、市民向けの認知症フォーラムも実施しています。私も講師として講演をさせていただき、ここ姫路の地で、認知症の啓発が進むよう、微力ながら協力させていただいています。きれいなポスターを目にした方も多と思います。



以下は 29 年度の統計資料です。認知症専門の科であることから、診断数、相談件数は県内のみならず、全国でも上位となっています。

1. 認知症疾患に係る外来件数及び鑑別診断件数(月別)(平成 29 年度)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
外来件数	642	635	686	651	730	683	707	675	716	705	612	718	8,159
うち鑑別診断件数	45	51	54	54	58	53	59	57	57	47	51	51	637

2. 研修会の開催状況(平成 29 年度)

実施日	研修内容	参加機関	参加人数
7月28日	第7回 認知症疾患医療センター研修会 「認知症について」	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関 ・地域包括支援センター ・居宅介護事業所 ・訪問看護ステーション 	175
10月27日	第7回 認知症疾患医療センター研修会 「BPSD の対応」		153
1月26日	第7回 認知症疾患医療センター研修会 「認知症のリハビリテーション」		97

3. 中播磨認知症疾患医療センター主催の市民向け認知症疾患予防フォーラム

年度	テーマメインテーマ「自分で守ろう脳と心臓」	参加人数
2015	認知症の理解を深めませんか？ 「認知症とは」「認知症の予防」「初期症状と対応」	249
2016	認知症の理解を深めませんか？ 「認知症とは」「認知症と思ったら～初期症状と対応～」 「認知症の予防」	334
2017	認知症の理解を深めませんか？ 「認知症とは」「認知症の予防」「認知症と思ったら～初期症状と対応～」	286

4. 専門医療相談件数(月別)(平成 29 年度)

内容 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
相談総数	115	114	101	96	118	134	129	120	101	117	117	116	1378
相談者数	82	87	82	80	92	104	98	89	87	94	85	97	1077

相談内容は多い順に「受診・受療方法について」、「介護保険サービスについて」、「介護方法・対応」、「心理的支援」となっています。相談数は増加してきており、内容も複雑なものが多くなっています。

災害拠点病院としての 事業継続計画(BCP)策定に向けた講演会の開催と ワーキンググループの結成

兵庫県災害医療コーディネーター
日本 DMAT 隊員 本多 祐

頃年、被災しても速やかに機能を回復し診療を続けるための業務継続計画(Business Continuity Plan: BCP)策定が災害拠点病院の指定要件として追加されました。そこで、BCP に基づいた当院の災害対策マニュアルの作成に向け、平成 30 年 5 月 23 日に **2 部構成の講演会**を開催しました。

まず第 1 部として、本邦の災害医療の第一人者である兵庫県災害医療センター センター長の中山伸一先生よりご講演を頂戴し、スタッフが災害医療の必要性を再認識する機会を設けました。中山先生から、阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震などの経験談、そしてそれらを教訓として構築されてきた我が国の災害医療体制の歴史を二本柱とした貴重な講演を拝聴することができました。また、BCP を策定する上で、広域災害救急医療システム(EMIS)の入力項目から病院被害を想定していくという大きなヒントも頂きました。

引き続き第 2 部として、BCP に基づいた当院の災害対策マニュアルの作成に向けて、BCP 策定の専門家(SOMPO リスクアマネジメント株式会社 医療・介護コンサルタント)をお招きして、作成のポイントを伝授していただきました。主なポイントとして、医療機関における BCP の特徴、従来の災害マニュアルとの違い、BCP 策定後の継続的な検証について、普段災害医療に携わっていないスタッフにも分かりやすく解説していただきました。

そして、講演後直ちに、部門管理者と院内の各部署から選抜されたメンバーによって構成された BCP 策定のワーキンググループを発足しました。定期的な活動を通じて、前述の災害拠点病院の指定要件のデッドラインである今年度中(H31 年 3 月末)の完成プラス検証の実施を目指して、メンバーが一丸となって頑張っていく所存であります

